

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530097

研究課題名（和文） 「極右」政党の政権参加と福祉制度改革の比較政治

 研究課題名（英文） “New Right Party” and its Impacts on Welfare System Reform in Europe
: A Comparative Perspective

研究代表者

大黒 太郎 (DAIKOKU TARO)

福島大学・行政政策学類・准教授

研究者番号：20332546

研究成果の概要（和文）：

本研究は、「極右政党」を組み込んで、1990年代のヨーロッパで相次いで登場した右派連合政権（オーストリア・イタリア・オランダ）によって実現した年金・医療保険制度改革において、「極右政党」が果たした独自のインパクトを確定することがその第一の目的である。また本研究は、ドイツ・イギリスなど左翼政党主導で実現した同時期の同種改革との対比のなかで、その改革の性格を明らかにしようと試みた。

研究成果の概要（英文）：

The “New Right Parties(NRPs)” have made significant success in electoral politics in Europe since 1990’s. In some countries (Austria, Italy and Netherland), the NRPs became the “government party” and the coalition partner of the conventional conservative parties in 2000’s after the long-term marginalization. This study seeks to clarify the impacts of the “new right party” in government on the welfare system reform in these countries and try to compare the political process of the reform with the “another style” structural reform of the welfare state by the left government led by social democratic parties in the other states in Europe(Germany and Great Britain) in the same time.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：右翼政党、福祉制度改革、オーストリア政治、比較政治学

1. 研究開始当初の背景

94年のイタリアに続いて、2000年のオーストリア、そして2002年にはオランダで、「極右」とされる政党が政権に参加し、ヨーロッパにおける「極右」政党の伸長は、90年代半ば以降決定的に新しい段階に入った。

さらに、この「極右」政党の政権参加によって安定的な政権基盤を獲得した右派連合政権主導の政策転換は、当該社会にとってこれまでいかに広範囲で、またその他のヨーロッパ諸国との比較の上でも大胆な構造改革の試みであることが明らかになりつつある。これまで、極右政党の政権参加は、移民

政策や治安対策といった「極右政党」に特異な政策からの注目がほとんどであった。しかし、政権参加を果たした「極右政党」は、政権与党として移民問題や治安対策といった分野ばかりでなく、経済政策や福祉国家改革といったより広範囲な政策領域でも独自のスタンスを示しており、政権参加後の「極右」政党の分析には、これまでのような焦点を絞った狭い研究では不可欠である。また、「極右政党」を政権与党とする右派連合政権の改革路線は、「極右政党」の意向を反映したのもとなっており、新政権の政策動向についての研究にとっては、政権参加後の「極右生徒」への着目は不可欠である。

本研究は、2000年前後に「極右政党」が政権参加して成立したヨーロッパ3国の右派連合政権が進める福祉国家制度改革の性格を明らかにするためには、「極右政党」に着目する必要があるとの視点で研究を開始したものである。

2. 研究の目的

研究の目的は、以下の3点である。

(1) 右派連合政権の年金・医療保険制度改革の実現プロセスのなかで、「極右」政党が果たした役割を確定すること

(2) 「極右政党」の参加による改革を進めた右派連合政権の政権運営プロセスと、その登場から崩壊にまで至るプロセスを、そのメカニズムとともに明らかにすること。

(3) 右派連合政権の年金・医療保険制度改革が、90年代に進んだ左派主導の改革といかなる点で異なっているのかを明らかにすること。さらに、この分析を通じて、政権構成と福祉国家改革の性格を比較分析を通じてマッピングし、90年代以降に各国で進んだ福祉国家制度改革をヨーロッパレベルで対象とする総合的な比較研究に発展させるための基礎とすること

3. 研究の方法

本研究の学術上の特色は以下の4点にある。

(1) これまでの「極右政党」の研究は、政党のイデオロギー分析や選挙での躍進の要因分析が中心であったが、本研究は、こうした背化を前提としつつも、新たに当該政党の「政権参加のインパクト」という新たな視点を導入するものである。合わせて、「極右政党」への関心を、これまでの「移民政策」や「治安対策」といった「極右政党」独特の政策分野から、より広範な市民への影響力を持

ちうる「福祉国家改革」という政策分野にも広げる。

(2) 本研究は、既存の福祉国家制度改革研究に、「極右政党のインパクト」という独自の視点を加えようとするものである。「極右政党」の政権参加のもとで制度改革が進んだオーストリア・イタリア・オランダは、これまでの福祉国家研究においても重要な役割を占めてきた諸国であり、本研究独自の新たな視点をより広範な福祉国家制度改革研究への貢献へとつなげる。

(3) これまでの福祉国家制度改革研究は、イギリスやドイツなど、社会民主主義政党主導で進められる改革を対象とするものが多かったが、本研究は、これまで看過されてきた90年代以降のもう一つの福祉国家制度改革、すなわち右派連合政権による改革の性格を明らかにし、その実現プロセスに着目して、福祉制度改革研究に新たな視点を加えることで、ヨーロッパというレベルでのより広範な福祉制度改革比較研究へと発展させる基礎を築く。

4. 研究成果

上記の研究目的ごとの研究成果は以下の通りである。

(1) 「極右政党」の果たしたインパクト

① 極右政党を政権参加させる決断をすることによって、右派国民政党は、自らが運営する右派連合政権の脆弱性を克服し、これまで各国の政権運営を主導してきた左派政党有利な政党システムの状況の転換に成功した。より安定的な政権運営が可能となったことによって、福祉制度構造改革のための政治的基盤が強固となった。

② 政策的なインパクトとしては、政策が目指す方向性として、「強い国家と市場主義」という組み合わせが決定的になった。ヨーロッパ各国内で「右翼政党」が伸長した国々に共通する特徴として、長期にわたる政権独占と、それを通じたパトロネージによる既得権益の構造化が挙げられるが、右翼政党の改革方針の1つの核である「市場主義」は、そうした現状に対する強力なアンチテーゼであった。また、もうひとつの柱である「強い国家」については、増大する移民への厳しい対応や家族主義といった「右翼政党」が、本来的なテーマとして抱え続けてきた主題からの傾ラリーである。本来矛盾するものとも考えられるべき「市場主義」と「強い国家」の政策的結合が可能となったのは、各国の政治史のなかで醸成され、「極右政党」にとって改革の本丸と考えられたそれぞれの国家の政治構造が存在していたことが考慮されるひつ

ようがある。

③政権基盤の強化と政策的方向性に見られる「極右政党」のインパクトは、(後述するように、各国の差を無視することはできないが) オーストリア・イタリア・オランダの3国において共通してみられる。

(2) 右派連合政権の政権運営プロセス

①「右翼政党」の政権参加によって右派連合政権が登場して以降は、それまでとは異なった政治的ダイナミズムが生み出され、「極右政党」の弱体化の傾向が見られた。野党時代と政権与党時代の「極右」政党は、リーダー選出や党内運営、与党内関係、各種社会団体との関係というあらゆる面で異なっており、政権参加した「極右政党」には、新たな対応が求められることになった。政権与党としての責任を担う立場からは、これまでのように「批判政党」として得票最大化を目指すことが難しくなり、選挙での敗北を重ねるようになる。野党時代の得票極大化路線と、「責任政党」としての与党維持路線と「アイデンティティ・クライシス」は、選挙での苦戦ばかりでなく、党内対立を激化させ、「極右政党」の弱体化を生み出した。

②極右政党の弱体化によって得票上もっとも有利な立場に立ったのが右派国民党政党であった。右派国民党政党の選挙上の復活は政権復帰後の選挙結果によって明らかとなったが、皮肉なことに、選挙政治上の右派国民党政党の復活は、同時に実現した「極右政党」の弱体化を通じて、「右翼政権」の脆弱化へと繋がり、右派連合政権の基盤を不安定化する要因ともなった。

③右派連合政権の政権運営プロセスは、「極右政党」のアイデンティティ・クライシスに端を発した「極右政党」内の権力闘争、影響力を増した右派国民党政党と弱体化が進む極右政党との政権内対立をめぐって展開し、この矛盾をどうマネージすることができるか、が右派連合政権の命運を決することとなった。同時に左派政党が一貫した政策プログラムで右派連合政権に対抗してきた場合、政権の立場は極めて弱くなってしまうことが明らかになった。

(3) 左派主導制度改革と右派主導制度改革の比較政治

①「極右政党」の政権参加による福祉国家制度改革の政策的方向性の核には、「強い国家と市場主義」という組み合わせがある。選挙上の公約や政権成立当初の改革案策定にあたっては、特にこうした特徴を強く見ることが可能である。この特徴の明確化には、これまで各国における福祉国家建設にあたって

重要な役割を担ってきた、右派国民党政党の伝統に、「極右政党」という1980年代以降のヨーロッパ政治の1潮流が加わることで形作られたものであった。

②しかしながら、戦後60年以上にわたり各国独自に展開してきた福祉国家制度の経路依存性も強く、また、右派連合政権の政権基盤の脆弱化とともに、福祉制度改革という不人気な政策の遂行は難しくなり、政権運営上の必要性から、多くの妥協が必要となった。

③当初の政策的方向性と、政権運営上の必要性の間で、どのような「妥協」が行われるのかで、各国の差が生まれた。改革の後退と改革の凡庸化、財政赤字の拡大を通じた政権基盤の強化の優先などが追求されることになり、3国でともに極右政党参加の右派連合政権は長期的な改革政権とはなりえなかった。

④本研究の目的でありながら、十分な展開を見ることができなかったのが、2000年以降のオーストリア・イタリア・オランダにおける右派主導の福祉国家制度改革を90年代のドイツ・イギリスの左派主導の改革(「第3の道」)との比較のなかに位置付ける作業である。上記論点の論文化とともに、今後早急に取り組むべき課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大黒 太郎 (Taro DAIKOKU)

福島大学・行政政策学類・准教授

研究者番号：20332546